

平成 27 年度
事業報告書

社会福祉法人 千鳥会

目 次

法人本部	4～7
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	8
津名デイサービスセンター	8
千鳥会居宅介護支援事業	9
千鳥会在宅介護支援センター	9～10
家族介護教室・家族介護者交流事業	10
地域支援事業 (ふれあいの集い ちどり・高齢者住宅等安心確保事業・兵庫L S A・配食サービス)	10～11
グループホーム しおさい	11～12
しおさいデイサービスセンター	12
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	13
ゆうらぎデイサービスセンター	14
ゆうらぎ訪問介護ステーション	14～15
養護老人ホーム 北淡荘	15
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	15～16
佐野デイサービスセンター	16
地域密着型特別養護老人ホームほほえみ	17
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	17～18
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	18
ほほえみ居宅介護支援事業所	19
ちびっこランド ちどり	19～20

2015(平成 27)年度 事業報告書 社会福祉法人 千鳥会

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
評議員会	平成 27 年 5 月 25 日	千鳥会 法人本部	19/19	①平成 26 年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算の件 ②平成 26 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業報告の件 ③平成 26 年度 社会福祉法人 千鳥会 決算報告の件 ④平成 26 年度 社会福祉法人 千鳥会 幹事監査報告の件 ⑤定款変更の件 ⑥就業規則・公印管理規定変更の件 ⑦その他	なし	竹上憲二 宮尾慶子
理事会			9/9		なし	竹上憲二 宮尾慶子
評議員会	平成 27 年 12 月 21 日	千鳥会 法人本部	18/19	①千鳥会ゴールド照明設備 LED 化工事の件 ②しおさい 太陽光発電設置工事の件 ③ほほえみ 太陽熱利用給湯システム設置の件 ④職場定着支援助成金（介護福祉機器等） 助成の件 ⑤社会福祉法人 千鳥会第 1 回補正予算案の件 ⑥就業規則等の改正の件 ⑦その他	仲野和美	宮尾慶子
理事会			8/9		仲野和美	宮尾慶子
評議員会	平成 28 年 3 月 28 日	千鳥会 法人本部	18/19	①平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業計画(案)の件 ②社会福祉法人 千鳥会 新年度予算(案)の件 ③諸規定変更の件 ④千鳥会役員構成の件 ⑤その他	福田信一	竹上憲二 宮尾慶子
理事会			8/9		福田信一	竹上憲二 宮尾慶子

2. スキルアップ研修

研修対象職種	講 師 名	研修内容	実 施 日	参加人数
全職員	公益社団法人 兵庫県看護協会 専務理事 小田美紀子	標準予防策・施設における感染対策	2015 年 7 月 19 日（日）	29名
			2015 年 8 月 23 日（日）	23名
			2015 年 9 月 26 日（土）	29名
			2015 年 10 月 3 日（土）	22名
			2015 年 11 月 15 日（日）	32名
			2015 年 12 月 6 日（日）	18名
			2016 年 1 月 30 日（土）	35名
			DVD にて受講	74名

3. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目／実施場所		参加人数
職員福利厚生事業	2015年10月12日(祝月)	バレーボール	神戸ワールド記念ホール	8名
	2015年9月19日(土)	BBQ	佐野デイサービスセンター(雨天決行)	42名
	2016年2月19日(金)	ボーリング	旭洋(南あわじ市)	24名
職員親睦会	2015年5月8日(金)	「ウェスティンホテル淡路」		180名
忘年会(佐野)	2015年12月12日(土)	「津名ハイツ」		10名
忘年会(しおさい)	2015年12月9日(水)	「きとら 津名店」		16名
新年会(ほほえみ)	2016年1月8日(金)	「長松旅館」		37名
新年会(ゆうらぎ・北淡荘)	2016年1月15日(金)	「きとら 津名店」		63名
新年会(ゴールド)	2016年1月22日(金)	「アテナ」		51名
新年会(ぬくもり)	2016年1月29日(金)	「魚佐太」		9名
職員健康診断 (前期・後期)	2015年4～5月	ゆうらぎ・北淡荘・本部		41名
	2015年5～6月	ゴールド・しおさい・ぬくもり		86名
	2015年7～8月	ほほえみ		56名
	2015年11月	佐野デイ		7名
	2015年10～11月	ゆうらぎ・北淡荘・本部		101名
	2015年11月	しおさい・ぬくもり		16名
	2015年11～12月	ゴールド		20名
	2016年3月	ほほえみ		22名
職員腰痛検査 (前期・後期)	2015年7～8月	ゆうらぎ・北淡荘		83名
	2015年8～9月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		80名
	2015年9～10月	ほほえみ		42名
	2016年2～3月	ゴールド・ゆうらぎ・北淡荘・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		154名
	2016年3月	ほほえみ		41名
インフルエンザ 予防接種	2015年10～11月	ゆうらぎ・北淡荘		95名
	2015年11月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・ほほえみ		145名
	2015年12月	佐野デイ		7名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所		全職員

4. 入社式

入社式	新入職員数
2015年4月1日	7名
2015年6月1日	5名
2015年10月1日	9名
2015年12月1日	1名
2016年2月1日	3名
2016年3月18日	1名(新卒者)
合計	26名

5. 職員奨励金・助成金

	事 由	内 容	件 数
自己啓発支援	報奨金	介護支援専門員	2件
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	1件
自己啓発支援	報奨金	住環境コーディネーター2級	7件

6. 地域貢献事業

バジーズギャラリー作品展示

期 間	作 品 名	出 展 者
4月	日本画セミナー受講生作品展	日本文化会館 日本画セミナー受講生
5月		
6月	書道教室作品展	ゆうらぎ・北淡荘 ご利用者
7月	絵手紙～100日マラソン～	絵手紙教室生徒
8月	パステルアート・ぬりえ展	北淡荘ご利用者
9月	星座の観測	ゆうらぎご利用者
10月	能面・パステルアート	
11月	書道展	北淡あゆみ教室生徒
12月	カントリードール店	
1月	小学生 書き初め展	育波小学校、室津小学校
2月	書道展	ゆうらぎ・北淡荘ご利用者
3月	「SLを追って」写真展	

ほほえみギャラリー作品展示

期 間	作 品 名	出 展 者
4月	ほほえみ祭りポスター・ほほえみ祭りの写真展	ほほえみ
5月	書道作品展	デイサービスご利用者
6月	カタツムリとあじさい	浦保育所園児（30名）
7月	ゆうらぎ絵手紙教室作品展	ゆうらぎ絵手紙教室
8月	「淡路の山野草」と木工クラフト	白石 紘 氏
9月	「でっかい字を書きたかった展」	つ花せん
10月	水墨画 24点	浦小学校
11月	「森の仲間たち」	ほほえみデイサービスご利用者
12月	パッチワーク	釜口手芸サークル
1月	書き初め	学習小学校
2月	ステンシル	小規模ほほえみご利用者
3月	三賀森 忠靖 様 写真・塗り絵展	小規模ほほえみご利用者 (三賀森 忠靖 氏)

7.情報公表サービス受審

■ 第三者評価

しおさい しおさいデイ	2016（平成28）年3月24日
----------------	------------------

■ サービス評価（淡路市提出日）

ぬくもり	2016（平成28）年3月28日
小規模ほほえみ	2016（平成28）年4月19日（年度をまたいで提出）

■ ISOサーベイランス

2016年1月25日～27日

■ 指導監査

ゴールド	2015年11月24日
在宅 津名デイ	2015年12月22日
ゆうらぎ	2016年2月1日
しおさい しおさいデイ	2016年2月12日

8.総括

我が国の社会福祉を支えてきた社会福祉法人については、昭和26年の制度創設以来、抜本的な制度の見直しが行われていなかった。この間、社会福祉を巡る状況は大きく変化し、社会福祉法人の在り方そのものを見直すことが必要となってきています。

社会福祉法人が、その公益性・非営利性を高め、本来の使命を果たし、国民に対する説明責任を果たすことができるよう制度の見直しが求められており、社会福祉法人関係者には、それぞれの立場から、制度改革の趣旨を踏まえ、国民の信頼に応える社会福祉法人の在り方が必要となってきます。

特に、社会福祉法人は、地域のニーズにきめ細かく対応し、事業を積極的に地域に展開することにより、喫緊の課題となっている地域包括ケアシステムの構築において中心的な役割を果たすことが求められています。

今後の福祉ニーズの多様化・複雑化を見据えた時、公的な福祉サービスの供給だけでは、こうしたニーズに十分に対応する事は困難ではあるが社会福祉法人が、地域のニーズにきめ細かく対応し、それらを充足していくことが重要であり効率的・効果的に福祉サービスを供給していく観点からも、適切な社会福祉法人の在り方を深めていく必要があります。

このような状況を踏まえ、平成28年度の法人の取組課題を立案し、平成29年度の制度改革の実現に取り組んでいきます。

特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

平成 27 年度事業所総括

○勉強会・職員のスキル向上・人材育成

特養勉強会の定着と外部講師などの導入により、専門性の高い研修が実施でき職員の資質向上を図ることができました。具体的には外部講師に来ていただき、口腔ケアやポジショニング、嚥下機能などの講義を受け、実際の業務に生かしています。

○感染対策

感染症についてはノロウイルスの感染、インフルエンザの発症共に利用者 0 名、職員、職員家族に胃腸炎やインフルエンザの発症はありましたが、施設内に持ち込みすることはなく、施設内での感染は発生しませんでした。

また感染対策の強化として、出勤時に職員が体温測定を実施しました。発熱時には病院に受診し、Dr の出勤許可を得てから業務に従事してもらうなどの対応を取ってもらった結果、感染を拡大することがありませんでした。

○運営面

年間を通して、61 床のベッドに対しての稼働率 97.86%維持することができました。今年度は施設での看取り介護の人数：9 名（前年度に比べ+4 名）。入所者；14 名（前年度に比べ-1 名）、退所者 14 名（前年度に比べ+1 名）と年々増加傾向にあります。これは平成 27 年 4 月の介護保険の改正で新規入所者が原則要介護度 3 以上になっており、結果利用者の重度化が進んでいるのが要因の 1 つになっているかと思われます。ショートステイの方に関しても緊急ショートの受け入れも行っております。

今後も利用者・家族のニーズに応えられる施設づくりを行っていきます。

平成 28 年度への課題及び展望

長期入所者の平均介護度はH28.3.31 現在で 3.82（前年度 H27.3.31 現在で 3.74）と入所者の重度化が進んでいます。

平成 27 年の介護保険制度改正により入所要件が原則要介護度 3 以上となり、今後ますます入退所、入院者延べ人数が増加すると思われ、入所者の重度化に合わせたハード面とソフト面の対応が不可欠になります。

27 年度もスキルツリーを開催しており、介護技術の向上や職員に伝達する力の向上に努めて参りました。

また利用者が安心・安楽に介助を受ける、職員の腰痛予防の軽減のため、リフトやモジュール型の車椅子等の福祉用具の導入を行いました。平成 28 年度も職員の介護技術の向上や福祉用具の導入などハード・ソフト両面から充実化を図り、利用者の重度化、重度の方（身体的・認知）にも対応できるチーム作りを行いたいと思います。

津名デイサービスセンター

平成 27 年度事業所総括

平成 27 年 4 月 1 日から H28 年 3 月まで、利用者から選ばれるよりよいサービスを提供するため、介護知識・技術と接遇の向上、レクリエーションの充実を、下記のように取り組みました。

○ 職場環境を整え、教育・研修を推進し、全職員で資格取得に向けて学習。

○ レクリエーション委員会を設置し、ニーズに応じたメニューの開発。

○ 開業医及び居宅介護事業所を訪問

○ 専門職による個別機能訓練・運動器機能向上の実施。

○ 欠席者へのフォローアップ。

○ 外食レクリエーション・買い物レクリエーションの充実。

○ 本年度稼働率 78%、延べ利用者数 12060 人となり、新規利用者 28 名、昨年より利用者増加の為、6 月より定員 50 名に変更。今後も機能訓練の充実を図り、サービス内容の見直し、専門職の連携強化などを図っていききたいと思います。

平成 28 年度への課題及び展望

安定した稼働率実施のため、サービスのマンネリ化を防ぎ、多様化する利用者の個別ニーズに柔軟に対応できるようにサービス内容の継続的改善に努め、コンプライアンスに基づいた客観的、社会的、科学的なケアを目指しながら、津名デイサービスの特色と独自性を持った事業を展開し、体質を強化して参ります。

そして職員のスキルアップをはかりよりサービス内容向上を目指します。

また、老朽化したハード面の見直しを行い、利用者がより快適に過ごしていただけるよう施設設備の改善にも努めてまいります。

千鳥会居宅介護支援事業所（千鳥会在宅介護支援センター）

平成 27 年度事業所総括

平成 27 年 7 月 1 日付けで法人内の居宅介護支援事業所が統合になったことにより、ケアマネジャー間の報告、連絡、相談がしやすくなり、他のケアマネジャーからの助言を受ける事によりご利用者やご家族に対しても適切な助言やサービス導入が出来るようになってきたと思います。新しいご利用者が千鳥会を選んで頂くケースも多い反面、入院、長期入所、要介護から要支援になる方もありサービスの中止になるケースも多くなりました。

また各地域ケア会議に積極的に出席をするとともに事例を報告し、その方の課題のみならず、地域の課題にまで展開できるように図り、他市のケアマネ連絡会にも毎月出席をすることで他市の情報収集を図りました。

27 年度の改正により、特定事業所の集中減算も大きく変わり、今までの 3 事業から全事業が対象となり、更には 90%から 80%に引き下げられたことで厳しい状況の中ではありましたが、ケアマネジャーが一丸となって取り組み、その結果集中減算なし、との判定をいただくことが出来ました。

毎月実施した施設内での勉強会にも積極的に取り組み、より専門性を追求すべく、受講する側だけでなく、講師を務める者も知識を深めることが出来たと思います。

28 年度も部署内でのケース検討会議及び伝達会議を実施し職員の連携を図るとともに、施設内外の研修にも積極的に出席をし、どのような困難事例にでも対応ができるように各ケアマネのスキルアップを目指して行きます。

平成 28 年度への課題及び展望

今後も増えてくると予想される認知症の方ばかりでなく、障害を持った高齢者、特定疾患の比較的若いご利用者等の在宅支援を積極的に取り組み、専門医他関係者との連携を図ることでケアマネが認知症や様々な障害、特定疾患を理解することで一層寄り添った支援ができると思います。

法令を遵守し、自己研鑽に励み、介護支援専門員としての専門知識を身につけ、地域の方から選んでいただける居宅介護支援事業所を目指すとともに、地域支援関係者とも積極的に連携を図り新規利用者を増やすことを目標に、高齢になっても地域との関わりを継続し、住み慣れた自宅で自立した暮らしが継続できる事を目指し支援していきます。

千鳥会在宅介護支援センター

平成 27 年度事業所総括

高齢者とそのご家族及び地域住民の介護・生活支援・介護予防等に係る各種の相談・調整活動を通じ、高齢者の自立ならびに生活の質の向上を図ることを目的としています。

淡路市内に生活する高齢者が、要支援・要介護状態にならないよう予防を行い、住み慣れた地域で快適に安心して暮らせるよう、行政機関やサービス提供事業所と連携を図り、各種の地域支援サービスが利用できるような活動をしています。

平成 27 年度は前年度に引き続き、在介が中心となり、一人暮らし高齢者を中心とした訪問を積極的に行いながら、緊急性の高い場合には地域包括支援センターの職員と同行訪問を行うことで、情報の共有を行うとともに、適切な医療・福祉・介護サービスにつなげられるように支援を行ってきました。

しかし、介護保険を申請しても本人、家族の理解不足などでサービス利用につながらないケースや、介護保険内でのサービスでは支援できないケースも多くあり地域や住民への支援協力依頼や淡路市独自のサービスや当法人による自主事業に繋げ在宅での生活が継続できるよう支援していきたい。

また津名地域、北淡地域のケア会議や「包括・在介連絡会」「包括・千鳥在介情報共有会」及び各地域の民生委員児童委員協議会に毎回出席をすることにより行政や他の事業所、地域との情報の共有を行ってまいりました。

また「認知症をささえる家族のつどい ひまわりの会」に毎月参加し、家族の声を傾聴することで、参加者の思いを共有することもできました。また、つどいの後に開催されるカンファレンスにて会の振り返りと今後の方向性について話し合いを行ってきました。

介護予防事業の一環として、いきいき 100 歳体操への参加を積極的に勧め、初回参加者に対しては会場まで同行することでご利用者の不安軽減と、次回につなげられるよう配慮を行いました。近くに会場がない場合は、民生委員や町内会と連携し新たな地域展開を行いました。

また今年度も認知症サポーター養成講座を地域で行い地域での認知症への理解、地域力の向上にも取り組みました。淡路市社会福祉協議会主催の「福祉まつり」にも参加し、地域に当センターの広報活動を行いました。

平成 28 年度への課題及び展望

平成 28 年度も積極的に一人暮らしの方々を訪問または再訪問を行うことで、継続的に見守りを行い、孤独死、孤立死の予防と、高齢者虐待などを早期発見し必要な対応ができるよう、行政や他の事業所との連携、連絡を密に取り合っていくとともに、埋もれがちな住民の困りごとを地域で拾い上げ、必要な支援に繋げるしくみ作りを行うことを目指し、より地域に密着し誰もが住みやすい地域になるよう支援していきます。

家族介護教室・家族介護交流事業

平成 27 年度事業所総括

家族介護教室・家族介護交流事業は、在宅で高齢者の介護をしているご家族の方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなど介護の負担軽減に役立てていただけるよう配慮し、定期的を開催しました。また、施設見学の機会も設ける事で、施設での生活のイメージを持っていただける機会も作る事が出来ました。

他に、介護の知識だけに限らず、介護者であるご家族の心身のリフレッシュを目的とした活動内容も取り入れました。日々の介護から解放され、また参加者同士悩みを共有することで、前向きになり参加を楽しみにしているという声も聞かれました。

平成 28 年度への課題及び展望

今後も、介護されているご家族にとって、安らぎの場となるような活動に努めて行きたいと思えます。

地域支援事業

平成 27 年度事業所総括

○全体総括

地域で自立した日常生活を送ることを目的として、地域支援事業が実施され独自のサービスを提供しました。

「配食サービス」は平成 26 年 9 月より開始、「ふれあいの集い・ちどり」は平成 26 年 4 月より開始しました。

「配食サービス」は、手から手への配達を行うことにより安否確認が行え、コミュニケーションを図る事もできています。

今後、ご利用者が増えて行くサービスであり必要なサービスと思われれます。

「ふれあいの集い・ちどり」は介護保険を申請され通所介護を利用するご利用者が増えたため減少方向となっています。「兵庫 LSA24」は包括支援センター、居宅支援事業所からの紹介も多く利用ケースが増えてきています。

「高齢者住宅等安心確保事業」は、支援員との信頼関係も深く構築でき安心して生活を送られています。

平成 28 年度も地域支援事業は、介護サービスや介護予防サービスと並び介護保険制度の 3 つの柱の一つとして考えて行きたいと思えます。

○ふれあいの集い・ちどり

独自のサービスとして、H26.4 月から生きがいデイサービスを利用していたご利用者から今後も、定期的に地域の方と親交を持てる場が欲しいと希望され開始しました。

ご利用者が主体となり、プログラムを決めていただき、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。

外出を希望され、食事、買い物、季節の花の鑑賞、観劇、初詣と楽しんでいただきました。

事業所内で希望の調理もして頂き、たこ焼き、巻きずし、いなりずしと腕を振るって頂きました。

アクティビティとして、カラオケ、手芸、脳トレーニング等を楽しんでいただきました。

また、9 月に各地区が集まり合同で敬老会を開催し、他地区との交流を楽しんでいただきました。

○高齢者住宅等安心確保事業

安否確認、生活指導相談の件数は 9,332 件。前年度比-786 件。

緊急出動 24 件、関係機関との連携 27 件、平成 25 年度早々にシステムの入れ替えをして以来、不具合も減少し誤作動は無く、全体的に長年の誤作動による高齢者住民の精神的苦痛はほぼ解消されました。しかし、緊急通報システムの機能が複雑になってきたことで、使用過程で住民が混乱していましたが、回数を増やした事で現在は落ち着いています。今後も高齢化に伴う課題は益々増加傾向にあり関係機関との連携、生活支援はこれからも必要であり、特に独居で身寄りのない方の緊急対応、救急搬送での付添い者の確保は急務であると考えています。

○兵庫 L S A

利用者が住み慣れた地域で安心して自分らしく過ごして頂く為、定期的に見守り活動を実施し、また相談援助を行い、必要に応じ包括支援センター、担当ケアマネジャー、在宅支援センターと連携を図っていく。また、地域住民、民生委員に事業内容をより深く理解していただく様に広報活動を行っています。

○配食サービス

H26.9 月から開始した配食サービスは、サンフード（株）の共同によりバランスの摂れた食事内容を提供して頂いています。福祉施設の職員が配達する事で安心感を頂いています。また同時に、安否確認とコミュニケーションを図ることも出来ており、包括支援センター、居宅支援事業所からの紹介も増えてきています。今後、益々ご利用者数が増えると予想されます。

平成 28 年度への課題及び展望

○ふれあいの集い ちどり

住み慣れた地域での生活が今後も継続できるように、自立支援、QOLの向上に取り組んでいきたいと思えます。また、関係機関との連携を強化し、情報共有に務め、地域での暮らしを支えられる事業となるようにしていきたい。

○高齢者住宅等安心確保事業

平成 28 年度も問題解決の成功事例の更なる積み上げ、対応の円滑化に取り組み、また地域、関係機関との連携をさらに強化し、高齢者住宅入居者の孤立や生活問題の解決を推進することを旨すとともに、業務効率向上、業務適正化を継続実施したい。

○兵庫 L S A

平成 28 年度も知名度の向上に努め、契約数の確保に努めたい。また地域、関係機関との連携をさらに強化し、地域住民の孤立や生活問題の解決を推進することを旨すとともに、業務効率向上、業務適正化を継続実施したい。

○配食サービス

できるだけ住み慣れた地域で自分らしく生活を継続していくためにも、介護保険以外の取り組みが必要となります。薄れている地域力を活性化していくためにも社会福祉法人として何が出来るか、地域が何を必要としているかを模索し法人が出来ることを提案していくことが必要であります。

グループホームしおさい

平成 27 年度 事業所総括

地域密着型の施設として、ご利用者は地域に暮らす住民としての視点から、ご利用者と家族、そして地域住民との関わり、社会参加を今年度も重視してきました。

私達職員は、ご利用者個々の尊厳を守り、パーソナリティーを理解し、尊重する事を大切にしています。そして個人情報保護を保護しています。

日常生活の中では、地域交流として、地元である郡家地区の 2 つの高齢者サロン活動や、一宮公民館でのいきいき百歳などへ積極的に地域の高齢者と同じ立場で参加し、かつ社会参加を支援しています。

また、毎月の各内外行事を計画、実施しご利用者が楽しみを感じ、いきがいとなり、快活ある生活を目的にしています。また、グループホームでの生活が単純、かつ閉鎖的にならないように留意しています。

ご利用者のご家族の関係性が疎遠にならない様、日頃より一月に 1 回以上の面会や定期受診のご協力、ご利用者の誕生日の外食等で関わりを持てる機会を意図的に持てるようにしています。

しおさい秋祭りでは、地元の一宮中学校、吹奏楽部の生徒さんの生演奏は恒例となり、定着しています。
当日は地元の子供達から高齢者まで幅広く参加して頂きました。
子供達との交流では、一宮保育所や一宮小学校の運動会や、学習発表会にも参加させて頂き楽しい時間を持つ事ができました。
防災面では、淡路広域消防の指導の元、(夜間想定)避難誘導訓練及び、心肺蘇生訓練また自主避難誘導訓練も実施しています。

平成 28 年度への課題及び展望

H27 年度、運営面において、収入面では、前年度に比して、介護保険改定による介護報酬の減額と、ご利用者の入院者数の増加、退居後の空きベッド日数の増加等により、延べ利用者数は前年度 6,109 人から 6066 人に 43 人減少、0.7%減少。

入居稼働率は 93.0%から 92.0% と 1.0% 減少となり、介護報酬収入面の減額となりました。
また、支出面で、リビング用エアコン 1 台、居室エアコン 2 台取替え、太陽光発電設置に伴う経費の増加により、収支に於いて今年度は厳しい運営となりました。

H28 年度は、運営に於いて稼働率向上、空きベッド数の減少を重点目標に、経費削減と合わせ収入面の増加により、適切な運営が継続できるように努めていきます。
共用型のデイサービスの利用者増を目指して行います。

ご利用者個々が、地域の住民として、日常生活での、楽しみ、いきがいを感じる事ができるようかつ、ご家族との関係性を維持し、社会参加の継続により、快活ある生活となるよう今年度以降も職員一同で協働して努めていきます。

防災面では、今後の南海トラフ地震発生時の地震、津波の災害に備え、ご利用者の安全を第一とし、地域の避難場所の周知を図っています。いざと言う時に慌てないために、必ず起こるものとの日頃から意識し、危機に備えていく所存です。

しおさいデイサービスセンター

平成 27 年度 事業所総括

平成 27 年度は、ご利用者が前年度末より 4 名での開始となりました。

7 月からは 1 名が淡路市内の他の施設へ入所され実利用者が 3 名に減少となり、1 月からは 1 名がショートステイ及び、デイケア中心となった事で 2 月 3 月は 2 名の実利用者となりました。

この間、新規利用の相談は居宅介護事業所、地域包括支援センターからも数件ありましたが、ご利用者の事情等により利用には至りませんでした。

2 月に、ご家族から 1 件と居宅介護事業所から 1 件の相談があり、3 月から 1 名が新規利用となり、また 28 年度 4 月から 1 名が新規利用予定となりました。

平成 28 年度への課題及び展望

平成 28 年度に於いては、前年度の反省から新規ご利用者に利用して頂けるように積極的に取り組み、定員 6 名 (2 ユニット) に近づけるように、地域、居宅介護事業所、地域包括支援センター等各関係機関への連携を、深めて行きたい。
また、重点的目標としていきます。

今後もしおさいデイサービスを利用する事で、ご本人が他者との交流や、閉じこもり防止と社会参加となり、ご本人の楽しみや、生きがいを感じれるよう、また、ご家族に於いては、ご自身の時間の確保や、介護負担の少しでも軽減となるように職員間で協働して支援していきます。

ご利用者の個人を尊重する事はもちろん、パーソナリティーを理解、大切にしながら、現在の住み慣れた自宅での生活を継続できるよう、職員一同のチームケアで支援し、努力していきます。

特別養護老人ホームゆうらぎ

平成 27 年度事業所総括

ゆうらぎでは、以前より 24 時間シートの作成・運用を実施し、個別ケアに取り組んできました。使用していく中で、ゆうらぎ独自のシートを作り、更なる活用が出来ないか他職種が定期的に集まり、検討し話し合いを進めてきました。

また先駆的にユニットケアを実践している施設の情報も加味しながら、27 年度中にゆうらぎ独自のシートを作成する事が出来ました。今後は、更にもそのシートを活用しながら、利用者の情報を把握しケアに展開していきます。

行事の実施については、利用者の状態に応じて実施することが出来ました。

日帰り旅行では、以前より島外や遠方に出掛けていましたが、利用者が重度化している事から、楽しみよりも負担となっている方が多かった為、近い場所がかつ家族・職員と一緒に、交流を図れるように外食を計画し実施しました。その結果、負担の軽減を図ることが出来、短い時間の中でも交流を図り、有意義な時間を過ごす事が出来ました。今後も、利用者の希望や状態に応じた行事の実施を目指して行きます。

職員の人材育成では、毎月施設長を交えてリーダー面談を継続する事で問題点や悩みを把握し、迅速な解決を行うと共に、リーダーと各職員も定期的に面談を行い、働きやすい環境作りに努めた事で職員間の連携が強化されました。

また今年度には、介護保険法改正が行われ大幅に加算の要件の見直し等が行われました。

内容をいち早く把握する為に、外部研修会に積極的に参加し、加算の早期取得に努め家族等にも迅速且つ的確に説明した事で大きなトラブルもなく移行することが出来ました。年度末には兵庫県指導監査が行われましたが、大きな指摘事項もなく終える事が出来たのもその成果の一つであると実感しています。

今年度は、施設全体で一丸となり前進する事が出来た 1 年でしたが、まだ多くの課題が残っている為、来年度にはその課題克服に向けて取り組んでいきます。

平成 28 年度への課題及び展望

1. 予防処置を有効活用し受診を要する事故（アクシデント）の減少を目指す。
2. 利用者の情報・状況をゆうらぎで作成したシート等で掴み、本人に合った的確なケアを提供する。
また、掴んだ内容を基に、施設全体でゆうらぎ利用者に沿った取り組みを行う。
全体で行う事で職員との連携強化を図る。
3. 入居の前には、しっかりと面接を行いその情報を各職種に伝達しケアに活かす。
ゆうらぎ独自に作成した情報シートに落とし込む。シートは定期的に見直しを図る。
4. リーダー面談を毎月実施し課題の抽出・解決に向けて一体となって取り組む。
また、リーダーは目標に向かって職員と一つになる組織体制を形成していく。
5. 将来を見据えた組織を確立し、ゆうらぎを牽引していく人材の育成に努める。
6. 外部講師を積極的に招き、ニーズに応じた勉強会を提供し知識習得に励む。
7. 介護保険法改正等があった場合、速やかに情報を把握し家族等に説明を行い適正な運営に努める。
8. ショートステイ稼働率 100%以上（空床利用を含む）を目指す。
9. 加算の取得要件に満たしているものについては家族に了解を得、取得に励む。
10. 仕事内容の見直しを図ることで、少ない人員でも一定の効果が得られる環境作りに励む。

ゆうらぎデイサービスセンター

平成 27 年度 事業所総括

平成 28 年 3 月 31 日をもって 9 年間デイサービスの事業を行ってきました。

今年度は、昨年度からの利用者増そのままに、4 月よりたくさんの利用者に利用して頂く事ができ、55 名だった定員を 6 月には 60 名に増員する事ができました。

要因として、常に新たな事にチャレンジし、サービスの向上に努めてきた結果ではないかと思っています。地域にも定着してきたこともあり、ケアマネージャーからの紹介も多く、59 名の新規の利用者を獲得できました。

しかし、増えてきた利用者の中で席の確保が徐々に難しくなっています。人数が多くなると通路が狭くなり事故の危険性が高まります。安全で安心して利用して頂ける様に試行錯誤していく事が今後の課題であります。

この 1 年間で取り組んできたことを下記に記述します。

- 各月ごとに教育訓練を実施。職員の能力向上に努めた。
- 利用者増加に伴い、新しいレクリエーションの創作と取り組み等、ソフト面を強化する事で、利用者から選んでいただけるように努めた。
- 淡路市の通所系の事業所が集まる会議へ参加し、情報の共有を図った。

この結果として、本年度稼働率は 88.9%、延べ利用者数は 16,568 人となりました。

前年度の年間実績から比べても、延べ利用者数はプラス 989 名となっており、1 月平均約 82 名の増加となっています。

27 年 6 月からは定員を 55 名から 60 名に変更したことにより、新規利用者も急激に増え目まぐるしい日々が続きました。

その中で職員が一丸となり、利用者はどう過ごして頂くかを考え、実行してきた結果が利用者増につながった事により、職員個々に自信を持つ事ができました。

平成 28 年度への課題及び展望

今年度は下記の目標を設定し、職員一丸となり更なる利用者の確保を目指します。

- 増加する利用者に統一したサービスを提供していく為に、施設内部・外部への研修の参加・他事業所への見学を行う事で、自事業所の質の向上を図ります。
- 各職種の能力を高める為に、資格取得を図ります。
- 事故を未然に防ぐ為に、職員間で情報の共有を図っていきます。
- 利用者の普段口にされることの無い声を吸い上げ、顧客満足に努めます。
- 現在のサービスを満足とするのではなく、新しいレクリエーションへの取り組みを行います。
- より個別性を高め、個々との関わりを密にとっていきます。
- 域との関わりも今後は、より深めていきます。

以上の点について今年度より、ゆうらぎデイサービスセンターは取り組み、体制の強化を行っていきます。

ゆうらぎ訪問介護ステーション

平成 27 年度事業所総括

要支援者等の多様な生活支援のニーズに対して介護予防・日常生活支援事業に移行するとのお話がある中で、要支援の方々のサービスは適切か、自身でできることをサービス計画していないか、訪問しているのではないか、自立支援にむけてと謳われ、ますますサービスの質が問われる中、当事業所は調理を利用者の方とともに行う事に力を注いできました。

一人分の調理、減塩（薄味）や時間短縮、新しいメニューにも取り組んできました。

結果、本当に自宅でいつまでも生活してゆくことが出来そうということでサービスが終了したケースもありました。

サービス内容に利用者向き合う事に取り組んできました。

先を見据えて、気持ちに寄り添う。

ひとことと言ってしまおうと簡単ですがなかなか出来る事ではありませんでした。

この寄り添うが出来ないとサービスは実りませんでした。

何度も訪問介護員同士の思いが食い違ったりもしましたが、まだまだこれからも継続していきます。

目標として、職員が安心して訪問できるように報告、連絡、相談を訪問中訪問後に実施し状況把握・伝達する事をあげました。訪問介護員同士連絡し合ったり、こんな時どうしてる？と相談したりすることも少しですが出来るようになりました。

事業所への連絡も行うことで、不安であったことが少し解消でき、つぎに繋がる。また訪問先に駆けつけることで安心、さらに適切な判断で解決の糸口がみえる事もありました。

平成 28 年度への課題及び展望

来年度は日常生活支援事業を念頭におき、サービスの見直しを含め自費サービスを理解して頂き、地域にひろめる事やインシデントをあげて事故に繋がらないようにしていけたらと考えています。

養護老人ホーム北淡荘

平成 27 年度 事業所総括

平成 27 年度は、精神疾患者、認知症等、利用者が抱える問題が多様化してきている中で、大きな事故、問題もなく、概ね無難な施設運営ができたように思います。

健康管理面では、北淡荘開設時から嘱託医だった北淡診療所から、しおかぜ診療所の岡野ドクターに嘱託医が変わり、この機会に養護老人ホームとしての医療面での支援見直しを行い、利用者の健康管理意識の向上を図り、心身の健康維持に努めました。生活支援面では、要介護者が全体の 4 割を占め、生活支援の負担が大きく、特定での介護サービスも利用し、安心安全な生活が送れるように支援できました。

平成 28 年度への課題及び展望

施設開設以来、年平均 20 名前後の退所者で推移していたが、今年度は 33 名の利用者が退所され、一日現在満床とならない月が、年間半数以上もあり、新規の利用者を確保する事が年々厳しくなっています。

また、精神疾患者、認知症等の割合が高くなってきており、利用者間のトラブルの増加、離設事故の危険性等が挙げられます。28 年度は、北淡荘開設 10 年目を迎える事から、今までの業務や、行事を検証し、地域から必要とされる養護老人ホームとなり、利用者が、安全、安心して生活が送れるように取り組んでいきたいと思ひます。

小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり

平成 27 年度事業所総括

平成 27 年度は、介護保険制度改定に伴い介護報酬の改定が行われました。基本報酬が減額され、新設された加算、訪問体制強化加算・総合マネジメント体制強化加算・登録定員等の緩和（登録人数 29 名 1 日定員 18 名）など申請をして算定し、介護保険収入安定をはかりました。

関係機関との密なる連携及び、ご利用者・ご家族とのコミュニケーションをしっかりと図ると同時に、ご利用者・ご家族に信頼されるよう、ご利用者一人ひとりの多様な生活に対応した柔軟なサービス提供と、関係機関との密なる連携及びサービスの質の向上に取り組むことで、経営の安定化に努めて参りました。

今年度よりサービス評価の義務付がありました。サービス評価は質の向上の取組、チームのステップアップしていく者で自己評価（事業所評価）、外部評価（保険者、地域包括支援センター初め地域住民、運営推進会議メンバー）を自らの振り返りや質の向上を図るものであり、改善点や課題など見直す機会となり質の向上を図りました。

又、認知症予防の為の園芸療法を景観園芸学校の園芸専門員により 1 月から取り組んでいます。

地域との連携については、随時見学者・相談者・ボランティア(花壇作り・手芸・音楽)・研修生の受け入れ、消防訓練・運営推進会議(2ヶ月毎)の実施、地域の祭り・サロン・図書館・学校行事等への参加、日常的な買い物・通院・理美容・散歩等により、関係機関・居宅介護支援事業者・住民からの問合せの中では要支援の方々の依頼が増え、地域福祉の拠点としての役割も図れたかと思われます。

平成 28 年度への課題及び展望

平成 28 年度も、ご利用者に満足して頂けるよう、職員の人材育成と経営の安定化に努め、法令の視点からサービスの質の維持・継続を図り、地域住民、行政や関係機関及び各事業者と連携・協力し、地域の皆様の期待に応えられるよう、身近な必要とされる事業を展開して参ります。

佐野デイサービスセンター

平成 27 年度事業所総括

27 年度より、前年度月平均延利用者数が 300 人を超えた為、小規模から通常規模へ変更となると同時に介護保険改正による報酬減算と相重なり、報酬単価は前年度比 19%減となりました。

その対応策としまして定員を拡大し、利用者増を図ると共に前年度に引き続きご利用者に提供するサービス内容の充実に取り組んで参りました。

ご利用者の個別性を重視したレクリエーションや季節感を取り入れた外出行事の実施、毎月ボランティアの慰問、又 27 年度よりプログラムに認知症予防を組み入れました。

安心・安全の確立としましては、予防意識向上によりアクシデント・クレーム数を 10%減少。

地域住民の身近な拠り所としましては、週 1 回いきいき 100 歳体操の場所提供、毎月地域のボランティアの方との交流、佐野小学校生・佐野保育園児との交流会を実施、秋祭りの開催等、地域との繋がりを図ることができました。

しかし、11 月～体調不良による入院、長期欠席、死亡者増加に対する新規利用者補充至らず、結果、延利用者数 6,330 名と前年度を 1.8%上回りましたが、年平均稼働率は 74.7%となり、前年度より減収となりました。

平成 28 年度への課題及び展望

28 年度は、加算取得、経費削減と更なる関係機関との密なる連携及びサービスの質の向上に取り組むことで、適切な収益の確保に努めて参ります。

稼働率に関しましては、昨年度以上の稼働率を目指します。

ご利用者の安全・安心に備えて、津波を想定した訓練も昨年に続き実施していきます。

介護職員の減少によりまして、一日当たり利用定員数を 27 年度 27 名から 28 年度 25 名に変更しております。

介護職員の確保が当面の課題の一つかと思っています。

より良いサービス提供を行うには、職員のレベルアップが必要であると思います。

接遇教育にも取り組んでいきます。

地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ

平成 27 年度事業所総括

開設から 4 年が経ち、平成 27 年度は

- *ユニット型施設を活かしたサービスの質の充実
- *人材育成と体制・組織の基盤作り
- *目標稼働率の達成と予算内での業務の遂行 を大きな目標として進めてきました。

『ユニット型施設を活かしたサービスの質の充実』と『人材育成と体制・組織の基盤作り』に関して、平成 26 年 10 月頃より平成 27 年度にかけて大きく介護職員のユニット・フロア間の配置転換を行いました。大きな配置転換を行った理由は開設以来職員異動を行っておらず業務全般において、充実したケア、サービスの取り組みが進まない状況がありました。

また、職員の配置転換と同時に新しいリーダー擁立と固定化にも取り組みました。今では、各リーダーが各ユニットの介護職員をまとめ日々より良いサービスの充実に努めています。今後も介護面でのサービスに関してはリーダーが中心的な立場で動いていきますが、リーダーを支える介護職員スキルアップなしでは継続的なケアの充実は図る事が出来ないので、来年度に向けてはそういった点を重点的に注力して行きたいと思えます。

次に、『目標稼働率の達成と予算内での業務の遂行』に関しては、施設も年数を重ね設備や機器においても消耗が激しく、耐久年数を超えているものもある中で必要最低限の修理や物品の購入に抑える事が出来ました。目標稼働率の達成については、長期入居者の入院が持病や体調不良等が原因で相次いだ月も多くありましたが、入院者の居室を利用して短期入所利用に繋げられた事も多くあり、結果的には短期入所の稼働率が長期入居の目標稼働率の未達成分を埋める事が出来ました。

平成 28 年度への課題及び展望

来年度に向けては、まず目標稼働率の達成は必須項目として結果を残し、現場レベルでは継続的にご利用者へのサービスの質の向上を図ると共に、ご利用者やご家族がサービスを快く受け入れ、常に満足して頂けるよう努めていきたいと思えます。また、同時に職員個々にあった人材育成を行い、より強靱な組織作りを図り、安定的な運営と事業展開の推進や地域や社会の中でほほえみの地位がよりよいものになるよう取り組んでいきたいと思えます。

千鳥会デイサービスセンター ほほえみ

平成 27 年度事業所総括

27 年度は事業所の規模を小規模から通常規模となり、定員 30 名で運営してきました。

年間を通しての 1 日のご利用者数は平均 25 名弱となり、前年度の利用人数を若干上回る事が出来ましたが、定員を 35 名に増やすまでには至りませんでした。新たな加算として、職員の経験年数による「サービス提供体制加算Ⅱ」の算定を開始しましたが、介護報酬の改定や通常規模となった事で介護報酬が大きく下がり、利用人数・収入ともに当初予算の目標値は達成出来ませんでした。

27 年度の取り組みとしましては、大きな行事として 4 月に春祭り、9 月に敬老会、12 月にクリスマス会、2 月に交流会と例年通り 4 回実施しました。

クリスマス会では、ご利用者から要望の多かった外食でホテルでのランチを企画しました。

初めての企画でしたが、大型バスでの移動やホテルでの食事、ゲーム、ホテル内での買い物とご利用者の皆様には喜んで頂きました。

趣味活動においては、編み物や飾り等の作品づくりを行い、皆様熱心に取り組み、施設内での展示も行いました。

看護面については、季節ごとに食中毒や感染症予防のパンフレットを渡す等、健康面でのサポートを行い、今年度もご利用者間での感染症が広がる事はありませんでした。

また、11 月より看護職員は 1 名入職し、1 日 2 名勤務の日もあるので看護面の向上に繋げていくことができました。

機能訓練については、加算の算定のほか、リハビリ体操の実践や専門職のアドバイスにより、ご利用者個別の介助方法の改善を図ることが出来ました。

アクシデント・インシデントについては、事故件数を昨年度より1割削減することを目標にし、ミーティングファイルを活用して職員間の情報伝達・共有を図りましたが、ご利用者の状態変化もあり昨年より増加となりました。

事故ごとに原因分析、対策の検討を実施していますが、定期的に各事故の発生場所や時間、内容等からも傾向についての分析を行い、事故の削減に取り組んでいきたいと思っております。

インシデントについては、あまり件数が上がっておらず、各職員の気づきを記録に残すように職員に徹底し、事故の予防に努めたいと思っております。

平成28年度への課題及び展望

来年度は、介護・看護・機能訓練面等の各サービス内容の向上に取り組み、ほほえみデイの特色となるよう新しい取り組みも検討・実施していきたいと考えています。

職員教育の面では、施設外研修へ積極的に参加し、意識の向上や職員間で共有することで全体のスキルアップに繋がりたいと思っております。

また、予算目標値について、新規加算の検討やサービス向上による利用人数の増員へと繋げ、来年度中には定員を35名へ増員出来るように取り組んでいきます。

小規模多機能型居宅介護事業所 ほほえみ

平成27年度事業所総括

平成27年度介護保険制度改正に伴い、小規模多機能においても定員の改定や基本報酬の減算が行われました。定員は29名に増員の届け出を実施。事業所と利用者状況に応じて25名定員か29名定員の運用を行う形をとりました。新たに算定された総合マネジメント加算と訪問体制強化体制加算の算定を行い、基本報酬の減収を補いました。また登録利用者数も月平均24名程度を推移し、安定した事業運営につなげています。

過去3年小規模多機能としての馴染みの関係を活かした支援特性を活かし、相談依頼に応えることで事業所の周知も図れていることを実感する1年でもありました。関係機関からの相談依頼に加え、利用者家族から直接の相談依頼も徐々に増えてきています。特に泊りを組み合わせた支援や予防給付の地域支援事業への移行に先立ち、柔軟な支援を期待する要支援者の相談が顕著になっています。

取り組みにつきましては、研究発表として兵庫県介護福祉士会が開催する事例コンテスト「C1グランプリ」に参加。認知症利用者との支援者との関係作りから、寄り添う支援へつなげた職員の葛藤や喜びを発表することができました。優秀賞を獲得し、積み重ねてきた成果や今後の自信にもつながりました。

また地域に向けた事業所の取り組みとして、介護職員による「認知症予防教室」を開催しました。利用者家族、地域住民含め16名が参加。利用者家族の悩みや地域住民の声を事業所としても聞き、また自分達の積み重ねてきた認知症利用者や家族への気持ちや考えも伝えることができました。取り組みについても一定の成果が図れたものと実感しています。

平成28年度への課題及び展望

平成28年度は、事業所開設5年目を迎え、より一層の地域における「小規模多機能ほほえみ」の存在感や役割を高める1年にしたく考えています。

法人理念である「福祉はいつでもすべての人のために」にもあるように、どんな相談依頼に対しても真摯に出来る支援を提案し実践し続けることで引き続き信頼を積み重ねていきたいと考えます。また地域行事への参加は勿論、今年度も開催予定の認知症予防教室など事業所から地域への働きかけもより深くしていきたいと考えます。

ほほえみ居宅介護支援事業所

平成 27 年度事業所総括

開設 5 年目を迎え、多くのご利用者の担当をさせていただきましたが、7 月より千鳥会法人居宅として一つとなり、ほほえみ居宅介護支援事業所は閉鎖することになりました。

その時点で担当させていただいているご利用者は、本人・ご家族の意向の下、引き続き担当をさせていただいております。また、いきいき 100 歳体操も一旦は参加人数の減少もあり、参加者の入れ替わりもありましたが、ご近所の方やお知り合いにお声をかけていただき徐々に増えています。

この 1 年、ほほえみ居宅介護支援事業所としては、3 ヶ月でしたが、引き続き担当させていただいておりますので、これからも変わらず支援をさせていただきたいと心がけています。

いきいき 100 歳体操については「ほほえみ」施設を提供し、約 3 年と 6 ヶ月が経ちます。参加人数の変動はありますが、お知り合いに声をかけていただき、ご利用くださる地域の方も増えてきております。

ほほえみ施設のご利用者支援としては、月 2 回、1 階の多目的スペースを利用し「ほほえみ喫茶」をと、ひまわり作業所より喫茶コーナーをご提供いただき、サンリッチ喫茶を継続して行っています。

「ほほえみ喫茶」では、毎回手作りのおやつを楽しみにされ、好きな飲み物と一緒に召し上がり、ほほえみ内の違うサービス事業所をご利用されている方との交流の場にもなっています。

「サンリッチ喫茶」では、豆から挽いて入れたコーヒーの香ばしい香りにご利用者も「美味しいね」と嬉しそうに微笑まれます。

新たに、ほほえみ内のサービス事業所のご利用者様同士のふれあいを持てる場として「ほほえみの集い」と題して 5 月に行いました。皆さんでお茶を飲んだあと、紙コップにピンポン玉を入れリレーで送って行くゲームをし「早く早く」と声をかけあい賑やかに行うことができました。1 回目は負けたチームも 2 回目は「よっしゃ今度は勝よ」と意気込みも強くゲームに参加される姿もありました。

ほほえみ祭では昨年同様東浦中学校の吹奏学部の皆さんにオープニングを飾っていただき、迫力のある演奏に皆さん感動されていました。

平成 27 年度は 3 ヶ月のみの報告しかできませんでしたが、居宅で担当するご利用者については、来年度も引き続き皆さんが安心して、住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるような 1 年にしていきます。

ちびっこランドちどり

平成 27 年度事業所総括

平成 27 年 4 月より、事業所内保育事業として市の認可を頂き認可保育園としての新たなスタートをきり、通常保育 4 名・一時保育 2 名の園児を迎えることができました。

職員体制も、保育士 3 名が加わり 6 名で新体制を整えました。

更に、5 月に 2 名、9 月に 1 名の保育士を迎え、ちびっこランドちどりの特徴“一人ひとりが主役”の保育を目標に、保育指針をもとに年齢別年間保育計画また、発達過程や個々の個性に配慮した月間保育計画を作成し、異年齢児が楽しく過ごせる保育内容の充実に努めてきました。

4 月の登園当初は、初めて保護者から離れた不安と環境の変化等で大泣きする子供の情緒の安定に努め、園の方も 6 階から 3 階への移転もあり慌ただしく過ぎました。

5 月には、園での生活にも慣れ手遊びやリズム遊び等、保育者と一緒に安定して過ごせるようになりました。

天気の良い日は引野公園や、散歩など園外保育も楽しみのひとつとなり、7 月からは水遊びを開始しました。

9 月には、敬老の日に因んで祖父母参観日を開催することができました。

保護者を招いての行事としては最初の催しとなり、たくさんの方に御参加いただき「日ごろ見れない孫の姿を見ることができて楽しかった。」と、喜びの声を頂くことができました。

10月は、園児の発育過程を考慮し須磨海浜水族園に遠足に行きました。

園外でお友達と一緒に集団活動を楽しみ、保育者とのコミュニケーションや身近で生き物に触れる喜びを感じ楽しい時間を過ごすことができました。

また、昨年に引き続き“芋ほり”に参加したり、小規模多機能型居宅介護事業所“ほほえみ”にて、高齢者の方と一緒に食事やボール遊びを楽しみ、高齢者のやさしさやみんなの笑顔に触れる事が出来ました。

10月からは通常保育6名、一時保育の登録者が8名となり、月曜から金曜日までは毎日平均5名の園児が元気に登園し、0歳児が中心のちびっこランドちどりは、腹ばいや伝い歩き、手の届くものは何でも口に入れ確かめる発達段階を迎えた園児が大半となり、より近くで見守りながらの援助と、何事においても早期発見・早期対応に努め、園児一人ひとりに丁寧な保育サービスの提供を新たな安全対策として対応しました。

11月上旬頃よりノロウイルス感染が流行し、園でも2名の園児が罹患、今までの対策では不十分な面が浮き彫りとなり感染症対策・二次予防対策の見直し改正を行い、ちびっこランドちどりとして独自の感染ガイドラインを設け、安全な保育環境づくりに重点を置き職員共有理解の下、感染症対策を実践しています。

尚、保護者の方には、感染症対策にご理解、ご協力いただけるよう“おたより”や“会報誌”を通じて感染症等の実情報告及びご家庭での予防策等をお知らせしました。

1月には事業拡大によるISOサーイバランスの審査を受けたことで、日々行っている保育についての確信と、不足している面を再確認し今後の大きな課題となりました。

平成28年度への課題及び展望

開園3年目を迎え少しずつ地域での知名度も上がり、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上と、保育環境や保育機能・保育内容の充実を図り計画、実施していきます。

また、地域に開かれた保育園として市の子育て応援課と連携を取りながら、地域における子育てニーズを把握し、地域や行政そして保護者のニーズの重要性に応じ積極的に取り組めるよう努めます。

